

またも 市議会産業建設常任委員会で馬券場誘致請願を「採択」

賛成は、岡島、正村、渡辺、小林、細江の5議員！

一回の「審査」で突然、採決

昨年12月21日の本会議で「馬券場誘致の請願書は産業建設常任委員会に再付託し継続審査する」ことに決まりました。

これをうけた同委員会が1月29日に開かれ、わずか一回だけの「審査」で請願書を「採択」しました。賛成は、正村嘉規、渡辺史郎、小林武、田島茂洋、細江正人の5議員、反対は北村收議員1名のみでした。

この日の討論で注目されたのは、田島議員が馬券場誘致は「財源確保のための手段」だという本音を出してしまったことです。

また正村議員は「交通渋滞は実際に起こっていた」「馬券場を誘致しても商店街は繁栄しない」と認めながらも、石和の青少年問題を母子家庭に結びつけるという母子家庭への偏見に満ちた発言をしました。

誘致の目的は財源確保

田島議員は1月29日の同委員会で馬券場誘致の理由を次のように説明しました。

「鳥居本学区地域は、新幹線、名神高速道路、一般廃棄物最終処分地、フジテック誘致などに貢献した。名神高速道路路彦根インター設置に基づく周辺の山や遊休地、丘陵地を開発、本市の発展に大きな貢献をしたことは間違いない。しかし、そういったことに対する財源に苦勞し出費もしてきた。そこで財源確保のためあらゆる模索をした結果、最も有利な最後の手段として場外勝馬投票券発売所設置の開発推進に取り組んできた。そして今回の請願が提出された」

田島議員はこれまで「非常に有利な企業である」から誘致せよと主張していました。

これに対し私達は「馬券場周辺の環境整備費としてJRAから出るのは80%だけで、市税から20%を補填しなければならない。これでは市財政に貢献どころか逆に負担が増えてしまう」と指摘してきました。

「市の財政に貢献」という理由が崩れた結果、田島議員は馬券場誘致は「財源確保のため」だという本音を出さざるを得なくなったようです。

許せない「母子家庭」偏見

田島議員は12月議会で、石和を視察した結果「何ひとつ懸念するところはなかった」と発言しました。

そこで私達は「石和中学が荒れていた」という読売新聞記事と「荒れた学校とか、荒れた子供達の問題は馬券場も影響するし、今の教育の問題や家庭の問題なんかも影響すると思います」という星合氏の講演内容を紹介しましたが「石和中学が荒れたのは馬券場のせいだ」とは断定していません。

これに対し正村議員は1月29日の同委員会で次のように発言しました。

「石和の青少年問題は場外馬券場で解決することのできないそれ以前の問題です。バブル崩壊の酔いも覚めやらぬうちに、関東の奥座敷として、また男性天国の石和温泉でございました。」

そこには全国から多くの母子家庭の皆さんとかいろんな方がいらつしやって、夜になるとお母さんがお仕事に出てらつしやる、子供たちはその寂しさのあまり、外に出て行く、そういう問題があったということでございます。」

この発言は、石和の青少年問題と母子家庭を結びつけた母子家庭に対する偏見であり、断じて許すことができません。

他方で、正村議員は「石和で交通渋滞は実際に起こっております」「私は場外馬券場に反対していた時から、こんなもの来たって商店街は繁栄しない。馬券で負けた人はすぐ帰るし勝った人はその金もって帰りますよ」と発言しました。

『交通渋滞は事実』『商店街は繁栄しない』その通りですから誘致には反対して下さい。